

せん妄、どのような工夫をされていますか？



【せん妄とは】

せん妄とは様々な原因で一定期間意識が混乱することです。

【症状・特徴】

- ◆ 落ち着きのなさ、不安、焦燥感、注意集中力困難
- ◆ 精神運動性的の変化(興奮など)
- ◆ 知覚障害(錯覚、幻覚など)
- ◆ 見当識障害
- ◆ 睡眠覚醒リズムの障害、睡眠障害 など。

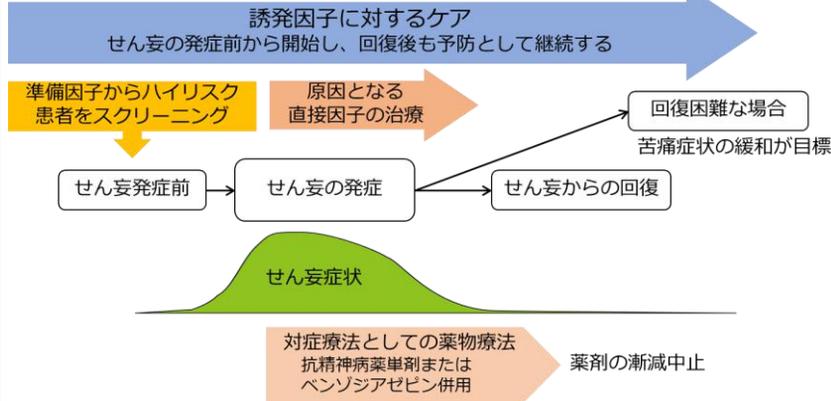
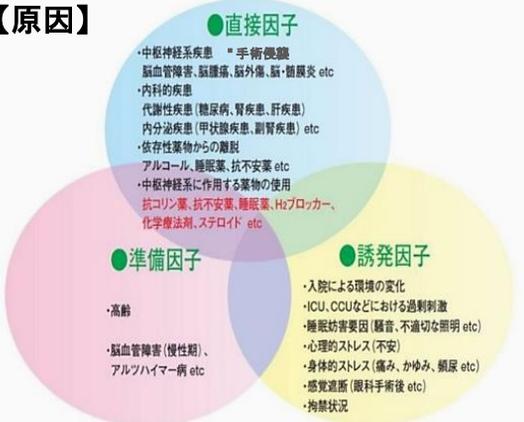
※これらの症状は数時間から数日のうちに急性に発症し、**日内変動**がみられる。

がん患者におけるせん妄の特徴

- ◆ 進行性の病態に伴って骨転移による高カルシウム血症、脳転移などが直接因子となる。
- ◆ 症状緩和目的の薬剤が増えるため、多剤併用になりやすく、特にオピオイドやステロイドなどが要因となる場合もある。

身体的原因、薬剤原因が複合的に影響したせん妄が多くみられます。

【原因】



【ケア方法】

患者本人の支援

- ・ 時計やカレンダーを見えるところに置く
- ・ なじみのある物(眼鏡、食器、パジャマ、スリッパ、入れ歯等)を持参する
- ・ 家族の写真を見えるところに置く
- ・ 昼間は日光を取り入れ明るくする
- ・ 刃物など危険なものを周りに置かない

家族の支援

- ・ 家族の気がかりやどのように感じているのかを把握する。
- ・ せん妄についての説明とゴールの共有。
- ・ コミュニケーションの工夫(落ち着いた口調、強い説得は避ける、わかりやすい言葉で話すなど)
- ・ 家族の存在の重要さや、家族の行っていることの重要さを伝える(傍にいただけで意味がある)
- ・ 家族の健康にも配慮する



【治療】

- ◆ 原因検索を行い、因子を除外します。
※高Ca血症や貧血、脳血管障害など見落とされがちです。

- ◆ せん妄の原因となる薬剤は変更・中止できないか検討します。(下記薬剤使用している際は注意)

- ・ 抗コリン薬
- ・ ベンゾジアゼピン
- ・ 抗てんかん薬
- ・ オピオイド
- ・ ステロイド など
- ・ 抗パーキンソン薬
- ・ 抗うつ薬
- ・ H2ブロッカー
- ・ 抗ヒスタミン薬

- ◆ 落ち着かないときや眠れないときは抗精神病薬(リスペリドン、オランザピンなど)を使用。
→せん妄症状の改善に合わせて減量・中止します。(適宜頓用で対応など)

- ◆ せん妄の診断が困難である、または抗精神病薬での調整が難しい場合は、精神科または緩和ケアセンターへのコンサルテーションを検討します。

緩和ケアセンターは、主治医・病棟スタッフの皆様と一緒に、症状緩和をサポートしていきます。お困りの際は、緩和ケアセンターへ(内線:3219)

